

【採用 Q&A】

国家公務員採用一般職試験受験者向け

Q. 東京税関職員になるためには？

- A. 人事院主催の国家公務員採用一般職試験（大卒程度）、又は国家公務員採用一般職試験（高卒者）に最終合格し、東京税関で実施する採用面接後、採用内定されると東京税関職員になることができます。

Q. 東京税関の特徴は？

- A. 東京税関の特徴は、大消費地に直結した東京港、日本海側有数の港である新潟港を管轄しているほか、利用者数・物流量ともに全国一の成田空港と、発着枠が拡大し今後も利用者数の増加が見込まれる羽田空港を管轄していることから、空港での業務の割合が多いことです。また、各専門分野について、全国9税関をとりまとめるセンター機構が設置されています。

Q. 他の省庁にはない税関の魅力は？

- A. 税関には、輸出入にかかわる様々な業務があり、それぞれの職場で専門性が求められます。輸出入貨物の審査や情報分析等をするデスクワークから、空港での旅具検査、海港での取締り、貨物検査、大型X線検査装置を使用してのコンテナ検査、ハンドラー（麻薬探知犬を扱う職員）業務、不正薬物の密輸入などの犯則事件調査、輸入者の事業所を訪問して行う税務調査などと、非常に幅が広いことが魅力だと思います。

Q. 東京税関の職員数・女性職員の割合は？

- A. 現在約3,200名の職員がいます。うち、女性は約900名です。割合として少ないとされるかもしれません、ここ数年、女性の採用割合は約3割以上となっており、女性の管理職も増えてきています。一部に男性職員しか勤務していない職場もありますが、女性職員も全ての職場で働く可能性があります。当直勤務についても性別にかかわらず従事しています。

Q. 東京税関と横浜税関の違いは？

- A. 東京税関と横浜税関は同じ税関組織ですが、採用の窓口は別になります。採用後に人事異動で他税関に出向することもありますが、原則的には採用された税関の中で人事異動が行われますので管轄をよくご確認下さい。

基本的に業務内容は同じですが、大きな特徴として東京税関は成田空港・羽田空港を管轄に持つため「空」の勤務が多くなります。対して横浜税関は横浜港・千葉港などを管轄に持つため、「海」の勤務が多くなります。また、その他の東京税関の特徴としては、各専門分野の全国統一的な解釈・適用を担当する「センター機構」が設置されていることです。システム、品目分類、原産地、関税評価、知的財産、AEO、犯則調査等の分野において全国の中心的な役割を担っています。それぞれの職場・職員の雰囲気や転勤頻度、勤務体制など細かな点で色々と違いがありますので両方の税関を訪問したうえで、より自分に合う税関を志望することをお勧めします。

なお、採用面接においては両方を受験することも可能です。

Q. 東京税関の採用面接は、どうすれば受けられるの？

- A. 国家公務員採用一般職試験に最終合格すれば、税関の採用試験を受けることができます。ただし、現在採用対象としているのは以下の区分となっているので、注意願います。
- 大卒程度試験：行政（関東甲信越）、教養（関東甲信越） デジタル電気電子、機械、土木
建築、物理、化学、農学
- 高卒者試験：事務関東甲信越、技術関東甲信越

Q. 東京税関から連絡がなくても、官庁訪問に参加できるの？

- A. 国家公務員採用一般職試験の一次試験合格発表後に官庁訪問の受付を行います。
申込方法は東京税関 HP に掲載しますのでご確認ください。

Q. 税関ではどのような人を採用するの？

- A. 東京税関では当直勤務や土日に出勤する変則勤務などもあり、旅具検査など対人業務も多く、また、ヒトやモノの動きが国際化するなかで税関を取り巻く環境も絶えず変化しています。このような時代の変化に対応できる方や新しいことを学ぶ意欲のある方、他人とのコミュニケーションをとるのが好きな方は、税関という仕事に面白さややりがいを感じる職場ではないかと思います。

Q. 採用されるために必要な資格は?

A. 採用時に必要な資格は特にありません。税関業務は外国貿易と密接な関係があることから、英語等外国語が必要とされる仕事がありますが、採用研修で必要最低限の語学力は習得できます。また、多岐にわたる業務についても各専門分野の知識が求められますが、採用研修、職場配属後の実務研修で身につけることができます。

Q. 幅広い分野があるが、どの程度の知識が必要?

A. 業務に必要な知識の大枠は採用研修で教わります。また、職場配置後はそれぞれの業務毎に実務研修を行うとともに、先輩が日々の業務の中で指導してくれるので何も心配することはありません。

Q. 技術系区分採用の職員はどのような仕事をするの?

A. 基本的には、行政区分から採用された職員と同様に、税関業務全般に携わってもらいます。したがって、技術区分から採用された方も密輸取締りや輸出入通関のほか、税務調査、庶務事務等の業務を行う部署に配属されることがあります。税関には、輸入品や違法薬物の化学的な成分分析を行う部署や、農産品・機械・化学品等の輸出入の審査を担当する部署等があり、大学等で学んできた専門知識を発揮できる機会も多くあります。

Q. 今年の採用数は?

A. 人事院のHPにて掲載しておりますので、ご確認ください。
東京税関における過去の採用実績については「研修制度・採用実績」ページをご確認ください。

Q. 大卒程度試験採用者と高卒者試験採用者で配属される職種は異なるの?

A. 差異は設けておりません。税関では、業務の中で、大卒程度試験採用者、高卒者試験採用者といった線引きはなく、配属されれば一職員として働いていただくことになります。

Q. 既卒者、民間経験者等、年齢が高いと不利？

A. そのようなことは一切ありません。税関では、人物本位での採用を行っています。

Q. 採用までに勉強しておいた方がいいことは？

A. 特にありませんが、余裕のある方は語学や貿易実務の勉強をするのも良いかもしれません。

Q. 東京税関に採用後は、どこで勤務するの？

A. 採用されると、一般職（大卒程度）であれば2ヶ月半、一般職（高卒者）であれば5ヶ月半の研修（於：税関研修所）があり、その後東京税関の管轄内の部署所に配属されます。

Q. 職場配属の希望は聞いてもらえるの？

A. 年1回上司に仕事や勤務地に関する希望を提出します。また、希望に変更があった場合も隨時申し出ることができます。本人の希望を考慮して人事配置を行いますが、組織の定員や適材適所等の観点から、必ずしも希望に沿えるわけではありません。

Q. 仕事のやりがいは？

A. 不正薬物等の摘発や、適正な関税等の徴収などにより社会貢献できることがあげられます。やりがいは職員や職場によって様々だと思いますので、説明会等で職員に質問してみたり、パンフレット等のメッセージを読んでみてください。

Q. 身の危険を感じることは？

A. 多くの職場では、身の危険を感じることはありますが、職場によっては犯則嫌疑者を相手にすることや、船内検査・巡回・張込等を実施し、エンジンルーム等危険な場所に行くこともあることから、全くないとはいえないません。そのため、経験のある先輩職員が常にフォローしますし、単独で行動することではなく、チームで動くことになっています。また、必要に応じて警察あるいは海上保安庁等と協力して取締りを行っています。

Q. 出産後も働くことは可能?

A. 可能です。産前産後休暇のほか、子が3歳になるまで育児休業を取得することも可能で、現在はほとんどの女性職員が育児休業制度を利用し、その後復帰して活躍しています。また、復帰後も、フレックスタイム制、早出遅出勤務制度や育児時間制度が活用されています。男性職員に対しても育児休業制度、育児参加休暇や配偶者出産休暇があり、仕事と子育ての両立支援を行っています。

Q. 残業はある?

A. 特定の部門、例えば密輸の調査をする部門等では、事件処理等との関係もあり、残業（超過勤務）とならざるを得ないこともあります。

Q. 当直勤務とはどのような勤務体制?

A. 密輸阻止・貿易の円滑化のため、港、空港等では当直勤務を行っています。例えば空港では、深夜・早朝便にも迅速に対応できるよう、空港内の仮眠室で過ごします。班ごとの交代勤務体制となり、一週間当たりの勤務時間・休日数は通常の日勤勤務と同様となります。

Q. 当直勤務はキツイですか?

A. 当直勤務については大半の方が経験がないので不安に思われるかと思いますが、休憩時間、仮眠時間が確保されており、どなたでも問題なく勤務できる体制が組まれています。配属当初は体が慣れず、人によってはつらいと感じる部分もありますが、徐々に順応できるようになります。

Q. 異動は何年位で行われる?

A. 異動サイクルは概ね2～3年程度になります。

Q. 将来、地元に帰たいが他税関への転勤は可能?

A. 本省や他税関へ出向する職員もいますが、基本的には採用時から退職まで東京税関の管轄内で勤務することになります。他税関への転籍は、難しいと思われます。

Q. 引越しを伴う転勤は？

A. 東京税関の管轄には新潟県、山形県などがありますので、それらの地域に人事異動で赴任する場合には引越しを伴うことになります。また、他税関への出向することもあります。

Q. 寮・宿舎は？

A. 独身寮・世帯者のための公務員宿舎があります。入寮の希望調査は、採用研修中に行われる所以、その際に希望して下さい。ただし、宿舎の空き状況によっては入寮できない場合もあります。

Q. 東京税関以外での勤務は？

A. 本省や他税関、他省庁等への異動もあります。
東京税関では他税関及び警察等と人事交流を行っています。その他に財務省、東京国税局、金融庁、経済産業省、特許庁等へ出向している職員もいます。

Q. 海外での勤務は？

A. 海外勤務の可能性もあります。また、海外派遣研修も行っています。世界各国の日本大使館・領事館での勤務や、税関の専門家として外国税関での研修や指導員育成等の技術支援を行う勤務のほか、WCO（世界税関機構）等の国際機関へ派遣されている税関職員もいます。

Q. どのくらいの語学力があれば海外赴任できる？

A. 語学力だけで判断されるものではありません。業務内容に適した人物が派遣されますので、税関業務に精通しておくことも大切です。

Q. 英語が苦手で語学力に不安があります。

A. 英語が苦手な方でも、研修等で実務に必要なことは習得することができます。
採用研修ではレベルに応じたクラス分けをして授業も行います。また、採用時には苦手であった語学を就職してから勉強し、海外派遣や海外の税関職員に対して講義ができるほど語学力が伸びた職員もいます。

Q. PCスキルはどの程度必要?

- A. 通常の業務ではPCに関する高度な知識は必要ありません。また、基本的な知識については研修において学ぶことが可能ですので苦手な方も特に心配する必要はありません。得意な方については税関における様々な電子情報処理システムの運用・改善や開発といった業務を行う、システムに関する高度な知識が必要とされる部署もありますのでその知識を活かしていただける機会もあります。

Q. 麻薬探知犬のハンドラーになるためには?

- A. 麻薬探知犬を扱う職員のことをハンドラーと呼びます。ハンドラーも人事異動で配属される職場のひとつで、特別な資格は必要ありません。麻薬探知犬の養成研修やトレーニングを積むことでハンドラーとして活躍することができます。

Q. 採用研修では、どんなことをするの?

- A. 税関で仕事をする上で必要な知識、技能等の基本的な事項を学びます。内容としては、税関実務はもちろん、貿易実務、簿記、英会話等の語学、国家公務員法のほか、社会人としてのマナーや接遇も学びます。また、税関は制服を着用する職場であることから敬礼等の基本動作も身に付けます。

採用研修は全員参加の泊り込み研修です。東京税関で採用された職員だけでなく、全国の税関で採用された同期と共に研修を行うため、同期との絆を育む大変有意義な機会となります。

Q. 採用研修以外にどのような研修がある?

- A. 職場配属後も語学・簿記・PCなど、多くの研修を受ける機会があります。係長相当職任用前の中堅職員に対し行われる約1ヶ月間の中等科研修などの総合研修や役職に応じて行われる管理者研修、専門家の育成のために行われる専門研修など、様々な研修があります。

自己啓発研修という通信教育等による学習活動の支援制度もあり、条件を満たせば、受講料の全額又は半額の助成を受けることができます。